

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 8 期第 7 回相模原市緑区区民会議		
事務局 (担当課)		緑区役所区政策課 電話 0 4 2 - 7 7 5 - 8 8 0 2 (直通)		
開催日時		令和 7 年 1 1 月 1 0 日 (月) 午後 2 時～ 4 時 5 5 分		
開催場所		緑区合同庁舎 4 階 集団指導室		
出席者	委 員	1 4 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	9 人 (区長、副区長、他 7 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 議題 緑区基本計画の進捗状況について 3 その他 4 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。（◎は会長の発言 ○は委員の発言 ●は事務局の発言）

1 開会

緑区役所区政策課長の進行により、会議の成立要件を満たしている旨の報告、会議公開の確認、並びに傍聴希望者がいない旨の報告を行った。

2 議題

牧瀬会長の進行により、議事が進められた。

3 緑区基本計画の進捗状況について

事務局から資料に基づき、今回の審議内容である取組目標Ⅳ「『創り合う・つながり合う』まちづくり」の内容について説明を行ったのち、地域における取組及び課題の抽出ならびに今後の展開について、途中休憩を挟みながら、3班に分かれて意見交換を行った。

取組の方向性Ⅳ―1 及び 3

<各班の主な意見>

【A班】発表者：原委員

Ⅳ―1：地域経済の活性化

これまでの地域での取組の成果

○今年の七夕まつりにおいて、若い世代にもっと地域に関わってもらいたいとの思いから、同窓会企画を行った。

意見・課題

○自治会には高齢者が多く、世代間の交流に苦労している。

○自分のまちはどのようなまちなのか、自分の地域を噛みしめてからでないと、話が噛み合わない。過去の歴史や現状、未来を含めて地域の話をする必要がある。

今後の展開

○緑区らしさをもっと突き詰めても良いのではないか。その延長線上で中央区や南区との違いを考えていく。

○地域を考える上では、より深く、より広く、地域の違いを理解した上で、足し算・掛け算していくべき。

○地域の活性化のために、若い世代がもっと地域に関わるような取組が必要。

【B班】発表者：高橋委員

Ⅳ―1：地域経済の活性化

これまでの地域での取組の成果

○森ラボでは中山間地域での起業促進を行っているので、約4年間で10件程度の新規創業支援を行った。

○津久井地区まちづくり会議では空き家対策に取り組んでいる。

○すぐに経済の活性化につながるものではないが、串川地域では中学生らが事業体験をするような取組を行っている。

意見・課題

○各地域でのこれまでの取組みが面的に広がっていくような方策が必要なのではないか。

○IC周辺に青地が残っている。特に圏央道が開通してから実態とのずれが生じているように感じるため、土地の有効活用のためにも見直しができるのではないかと良いのではないかと。

IV-3：あらゆるネットワークでつなぐまち

意見・課題

○バスの減便による影響が大きい。さがみ湖MORIMORIでも閉園時間よりバスの最終便の方が早くなってしまい、来園者だけでなく従業員にも影響が出ている。

○特区の制度を活用し、先行して自動運転の取組を進めるのも良いのではないかと。

○気候変動の影響で農家が野菜を作るのが難しくなってくるかもしれない。形だけではなく、きちんと農業をやりつつソーラーシェアリングの取組を進めるなども必要なのではないかと。

今後の展開

○地域での様々な取組を広げていくような視点が必要なのではないかと。

【C班】発表者：池田委員

IV-1：地域経済の活性化

これまでの地域での取組の成果

○各地域で桜まつりやふるさとまつり等を開催している。

○交通空白地帯とも言えるエリアでは、地域住民自身が車を使うタイミングで他の住民も同乗するオンデマンドの取組を行っている。

意見・課題

○祭りなどのイベントは一時的な活性化に過ぎず、継続的な地域活性化には結びつかない。

○オンデマンドの乗合も地域住民のボランティア精神に頼っている部分もあり、実証運行事業も現状どの程度運行できているかわからない。そのような中で、最重要な交通インフラであるバスが11路線廃止になる。人が動けないところでどう経済を活性化させるのか。

今後の展開

○地域経済の活性化には交通インフラが非常に強く関係している。

○地域住民の生活を守ることができなければ、経済活性化以前に地域が死んでしまうため、地域と行政の連携が必須。

Ⅳ－３：あらゆるネットワークでつなぐまち

これまでの地域での取組の成果

○ＰＴＡでは、基本的にアナログでの情報伝達を行っている。

○民生委員では毎月定例会を開催しているが、数が大きくなると参加率が下がり、顔を見ない方が一定数いる。

○大沢地域ではひばり放送が聞き取りにくいことから、t v kで放送の内容を確認して伝達している。

○６０～７０代前半くらいまではＬＩＮＥが使えるそうだが、藤野地域では月１回のスマホ教室を開催している。

意見・課題

○メールやＬＩＮＥで情報伝達することもあるが、コミュニティの関係性が希薄化しているように感じる。人柄がわかるような踏み込んだコミュニケーションが必要。

今後の展開

○少子高齢化が進む中、万人が使えてしっかりと連絡がつくツールが必要になるのではないかな。

○直接対面する回覧板などの連絡ツールも引き続き重要である。

○オンライン会議もやった気になってしまうことも多いため、多用すべきではない。回数を減らしてでも対面で話すということが、次世代のネットワークにも勝るものではないかな。

○まず小さな単位でのネットワークを作ることが、今後の展開につながるのではないかな。

取組の方向性Ⅳ－２及び４

<各班の主な意見>

【Ａ班】発表者：山本委員

Ⅳ－２：地域の特性を生かした観光振興

○外部サイトに掲載してお神輿の担ぎ手を募るという意見も出たが、地域社会は排他的な部分や保険加入の問題などもあり、難しいという結論となった。

○イベントは準備や片づけが大変である。

○参入障壁が低いキャンプ場や宿泊業は若い人がどんどん増えて競争が激しくなっている。緑区全体としては観光客が増えて良いが、働く側からすると競争激化は悩ましい側面もある。

○相模湖MOR I MOR Iのイルミネーションは、かつては駅前の観光協会とタイアップして盛り上げていた。

○世間からは相模湖・藤野エリアは山梨県で、日帰りで遊びに来ることができる

緑豊かな場所と認識されているように感じる。日帰りが可能であることを売り込むような商品を出すのも良いのではないかな。

○女性のソロキャンプが流行っているので、女性が安心して過ごせるキャンプ場があったら良い。

○津久井のブランド水はあるのか。売り込みたいという話が出た。

○少子化対策と絡めて、街コンなどを緑豊かな場所でやるのも面白いのではないかな。

【B班】発表者：石井委員

Ⅳ－２：地域の特性を生かした観光振興

これまでの地域での取組の成果

○３０年以上前に提唱された「藤野ふるさと芸術村構想」により、芸術家がかなり移住してきている。

○シュタイナー学園に通うため、家族で移住して空き家に居住する状況が生まれている。

意見・課題

○津久井地区は水と緑が特徴であり、山や山道の整備などが必要である。

○まず交通インフラの整備（道路やバス路線廃止の代替策）が重要ではないかな。
これらが整備されないと観光客の誘致につながらない。

Ⅳ－４：文化・スポーツ

これまでの地域での取組の成果

○小原本陣祭の開催や村歌舞伎の復活、尾崎弔堂のPRなどを行っている。

意見・課題

○交通インフラの整備、道路整備が最も重要。

○宿泊施設が津久井地区は激減している。高校のボートの大会があったが、宿泊施設がなく、遠いところだと大月市に泊まった学校があったと聞いている。

○インバウンドの観光客や日本在住の外国人で自転車に乗って山中湖の方まで行く人がかなり多い。もっと整備して宣伝して海外にもPRしたら良いのではないかな。

【C班】発表者：立川委員

Ⅳ－２：地域の特性を生かした観光振興

意見・課題

○地域には沢山のイベントがあるが、内容や担い手は似通っている。担い手はボランティアがほとんどだが、継続していくためにも日当程度が出せるような、ひいては生業となるような仕組みを行政や観光協会に考えてもらいたい。

今後の展開

○「子どもが地域に根ざした伝統文化」という表現は再考すべき。

○お神輿は外部の担ぎ手が多くなってきており、伝統行事としての意味合いが薄れてきているのではないかと。いっそ観光的な側面を強くするのも一つの方法ではないかと。

○例えば秋祭りは豊作を祈るものであるように、お祭りの本来の意味や意義を考える必要がある。

Ⅳ－４：文化・スポーツ

意見・課題

○ボートやカヌー、釣りなど水にまつわるものが緑区には多い。スケボーも注目を浴びているが、練習場の整備をすることによってより若者の競技人口も増えるのではないかと。自転車も大会が行われているが、道路の整備が追い付いていないのではないかと。

◎牧瀬会長

現行の緑区基本計画には「ＡＩ・ＩｏＴ」といった単語も記載されており、策定当時としては最新の情報を盛り込んでいたと思われる。当時はここまでＡＩが進歩するとは思っていなかったかもしれないが、次回の計画についても、最新の動向を踏まえて、未来を見据えたものを策定できたら良い。そのためにも、引き続き様々な意見を出して第９期に繋げていきたい。

３ その他

次回の区民会議は１２月２４日（水）午後２時より集団指導室にて、次々回は２月４日（水）午後もしくは５日（木）午前とし、時間や会場については決まり次第ご連絡させていただく。

また、事務局より、「藤野野外環境彫刻作品の魅力向上プロジェクト」のクラウドファンディング型ふるさと納税の制度について情報提供するとともに、周囲への周知を依頼した。

最後に、猿渡委員より、旭小学校６年生（当時）が提案したラスク「berryのとりこ」が、神奈川県「子ども・若者みらい提案実現プロジェクト」で最優秀賞に選出され、商品化を経て京王百貨店サテライト橋本店にて販売中のため、是非食べて周囲にも紹介して欲しいとの情報提供があった。

４ 閉会

相模原市緑区区民会議委員出欠席名簿

(順不同・敬称略)

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出欠席
まちづくり会議	○田野倉 義信	橋本地区まちづくり会議	欠席
	佐藤 金男	大沢地区まちづくり会議	出席
	林 和博	城山地区まちづくり会議	出席
	関戸 仁	津久井地区まちづくり会議	出席
	河津 暁	相模湖地区まちづくり会議	欠席
	選任中	藤野地区まちづくり会議	
関係団体	石井 敏夫	相模原市２２地区社会福祉協議会緑区連絡会	出席
	立川 直子	相模原市民生委員児童委員協議会	出席
	佐藤 稔	相模原市ＰＴＡ連絡協議会	出席
	池田 孝夫	相模原商工会議所	出席
	森下 裕司	津久井地域商工会連絡協議会	欠席
	原 幹朗	公益社団法人相模原市観光協会	出席
	沼尾 将輝	公益社団法人相模原青年会議所	欠席
	畑野 栄久	公益社団法人津久井青年会議所	出席
	高橋 靖典	一般社団法人藤野エリアマネジメント	出席
	山本 祐子	特定非営利活動法人ふじの里山くらぶ	出席
	前山 善憲	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら	欠席
学識経験者	◎牧瀬 稔	関東学院大学法学部 教授	出席
区民	猿渡 達明	公募委員	出席
	高村 るみ	公募委員	欠席
	山下友梨子	公募委員	欠席
民間事業者	奥平 麻由	相模湖リゾート株式会社	出席
	櫛見 大	東日本旅客鉄道株式会社	欠席

◎は会長、○は副会長